

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570207779
法人名	有限会社 せせらぎ
事業所名	グループホーム せせらぎ
所在地	秋田県能代市落合字下谷地251番地6 (電話) 0185 - 52 - 4121
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤 5 丁目 1 番地の 1
訪問調査日	平成 21 年 12 月 22 日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 12 月 2 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 ~ 20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	9 名	要介護 2		4 名	
要介護 3	3 名	要介護 4		2 名	
要介護 5		要支援 2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西塚医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、山本組合総合病院が近隣にある住宅地の中に位置し、せせらぎ棟とはまなす棟の二つのユニットが、間に東屋を配して程よい距離に隣接している。どちらのユニットも窓が大きくとられ、リビングの外にはベランダがあり、広々とした開放感と明るい空間を作り出している。職員は、利用される方の意向に添った支援を心掛け、希望を取り入れたドライブなどに気軽に出掛けている。また企業内他事業所との合同運動会の開催や、温泉設備のある事業所での温泉入浴の実現など、企業の持つ多機能性を活かした楽しみごとの支援にも努めている。町内会に加入したり、老人クラブとの親密な関係を築いていたり、地域とのつながりを大事にしているホームでもある。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特にない。利用者への日々の支援、介護計画立案、定期的なモニタリング等良く行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には、毎年職員全員で取り組んでいる。職員会議や朝の打ち合わせ時に時間を作り、一つ、二つと話し合いを積み重ね、結果を管理者、責任者が文書にまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族代表、自治会長、老人クラブ会長・副会長、市職員をメンバーに6か月に1度開催され、利用者の状況、自己評価の取り組み、職員の研修等について報告している。この会議が、町内の道路のバリアフリー化について、市へ要望を提出するきっかけになった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に苦情処理箱が設置され、いつでも苦情、相談を受け付けている。また今年度第三者委員2名を委嘱し、苦情解決処理の体制が整備された。利用者のホームでの様子は写真を添えて報告し、預り金の収支状況については毎月領収書を送付して報告している。ご家族がホームに来た際には、利用者の状況を詳しく伝えたり、預り金出納簿の確認をしてもらったりしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、総会に出席したり、回覧板を利用者が回したりと、地域の一員としての活動を行っている。また地域の老人クラブとは、設立当初より互いの行事に招待したり、野菜をいただいたりと、親密な関係を築いている。近隣の子供たちとも、ハロウィン交流を行い楽しんでいる。

## 2 . 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	系列グループホーム共通の企業理念のほかに、「温かい心と愛とおもいやり、みんな大切な家族です」という、ホーム独自の理念を作り上げている。この理念は、その時々で最も相応しいものを職員が話し合って決めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やホール及び事務室に、利用者、訪問するご家族、そして職員の目に留まるよう、見やすく工夫して掲示している。また朝の打ち合わせや月に一度の職員会議時にも、理念の確認を行っている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、総会に出席したり、回覧板を利用者が近隣へ回したりと、地域の一員としての活動を行っている。また地域の老人クラブとは、設立当初から互いの行事に招待したり、老人クラブで作っている菜園の野菜をいただいたりするなど、良好な関係を築いている。また近隣の子供たちとは、ハロウィン交流を行い楽しんでいる。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、毎年職員全員で取り組んでいる。主に職員会議で話し合ったり、朝の打ち合わせ時にひとつ、ふたつと項目毎に話し合いを積み重ね、管理者、責任者が文書にまとめている。外部評価についても、職員会議で話題に乗せ、職員の理解が深まるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、家族代表・自治会長・老人クラブ会長及び副会長・市職員をメンバーとして、6ヶ月に一回開催され、利用者の状況・自己評価の取り組み・職員の研修等について報告している。この会議の話題が、町内の道路のバリアフリー化について、市へ要望を提出するきっかけになった。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の長寿いきがい課職員とは、介護保険の代行申請を通して、また運営推進会議でも顔なじみになっており、事務手続きや制度上の疑問点等について、いつでも相談出来る関係を築いている。</p>		
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者のホームでの様子は、随時写真を添えた手紙等で報告している。預り金については、毎月ご家族に領収書等を送付して報告しており、ホームに来た際に出納簿へ確認印を押してもらっている。適切に処理されていることが確認できた。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情処理箱が設置されており、いつでも苦情・相談等を受け付けている。また、今年度第三者委員2名を委嘱して、苦情解決処理の体制が整備された。今のところ苦情の申出はない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>企業グループ内の異動及びホームのユニット（せせらぎ棟、はまなす棟）間の異動も最小限に抑え、馴染みの職員で利用者の対応に当たるよう努めている。職員の異動があった場合はご家族にも知らせ、戸惑いのないようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は企業グループ内の研修や、外部研修等に積極的に参加しており、研修の機会が設けられている。職員会議時に伝達研修等が行われていた。</p>		<p>職員育成、そして何より利用される方への質の良いサービス提供のために、研修は重要である。伝達研修について、会議録に記録を残されることと、周知の確認のため研修資料等に職員の押印欄を作られる等、何らかの工夫をしていくことが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>秋田県グループホーム協議会、能代山本グループホーム協会、県北介護支援専門員協会に加入しており、同業者間のネットワーク作りに努めている。また毎月企業グループ内で、6グループホームの管理者会議を開催しており、互いの情報交換や悩み事の共有を図っている。</p>		
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には必ず利用される方とご家族に見学をしてもらい、ご本人が安心して、納得した上でサービスを利用してもらうよう努めている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のほとんどが女性ということもあってか、食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ、作品作り等の役割分担が自然な形で出来あがっている。それが日々の暮らしの刺激になったり、楽しみに繋がったりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の楽しみはドライブということで、希望を取るとほとんどの方が出かけた意思を示され、近隣から遠方まで、様々なところへ外出している。また美容についても、訪問美容の利用や馴染みのところへ出かけていく等、利用者、ご家族の要望に応えている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族から要望を聞き、毎月行われるカンファレンスで、職員から出された意見やアイデアを参考にして、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1度を原則にモニタリングを実施している。状態に変化があった場合は、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年1回開催されている企業内全グループホーム合同の運動会、春・秋のカラオケ大会は、利用者、ご家族とも皆楽しみにしている行事である。あいにく今年度は新型インフルエンザの影響で開催を見送ったが、グループホームを多数運営している利点を楽しみごとの支援に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に通院していたかかりつけ医、ホームの協力医院等、受診についてはご本人及びご家族の意向を確認して進めている。		かかりつけ医との良好な関係が築かれているが、主治医一覧表が1棟だけではなく双方にあれば、緊急時等の際より適切に対応できると思われるため、最新の一覧表の作成が望まれる。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、或いはターミナルケアが必要になった場合について、利用当初よりご本人、ご家族と話し合っている。主治医の協力が得られれば、ホームで出来る限りの対応を行うことにしているが、今のところ例はない。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日常の場面において、職員は言葉掛けや対応の仕方に心を配り、ご本人の尊厳やプライバシーを損なうことのないよう努めている。		ホーム内は明るく、広々として居心地の良い空間となっているが、トイレ入り口と居室保管の紙おむつがオープンな状態となっていた。目隠しをする等なんらかの工夫を期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビ体操や楽しみのカラオケ、日々の役割分担など多くの方が好んで行っていることのほかに、居室で自由に過ごされることを尊重している。役割分担のひとつだった洗濯物たたみについて、自分のものは自分で行う、と取り決めたところトラブルがなくなり、むしろ意欲的な表情を引き出すことができるようになったという事例もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	せせらぎ棟、はまなす棟それぞれの利用者の状況や希望に応じて異なるメニューを作成し、食材購入も別々に行っている。訪問当日は、ちょうど冬至ということで、昼食にかぼちゃが供され、大変美味しかった。97歳という最高齢の方も喜んで召し上がっていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者お一人の入浴回数は、週2回から3回という形で支援している。企業内の温泉の出るグループホームに出かけ、温泉浴を楽しむ支援も行っている。企業の持つ多機能を活かした試みである。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣や観光地などへのドライブや、地域の老人クラブとの交流、食事の手伝いや洗濯物たたみなどの日常的な役割を通じて、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方々の「今日天気いいな」の言葉が、ドライブ希望の合図として定着している。散歩やドライブ、他施設訪問、買い物等、利用者が戸外に出かけられるよう支援している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は、グループホームの玄関、非常口とも鍵を掛けない支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署と連携して年2回、避難訓練を実施している。避難場所は、2つの棟の間にある東屋としており、今年は6月に1回行っている。</p>		<p>例年2回避難訓練を実施しているが、今年度は春の訓練のみの実施であった。秋の訓練は予定していたが、諸般の事情で実施できなかったとのこと、避難訓練はグループホームにとって重要なことであり、計画通り実施されることが望まれる。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取量を把握し、状態に応じてゼリーや魚の缶詰を活用するなど、栄養や水分の確保に努めている。栄養士を講師に招き、研修会を開催するなど意欲的な取り組みを行っている。</p>		
<p>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下、ホール、トイレなど共有部分は十分なスペースがあり、また窓の部分を大きくとっているため、明るく気持ちの良い空間となっている。ホールの外にはベランダと庭園があり、天気の良い日や季節の良いときは、ベランダで作業をしたり、庭園を眺めたりと、解放的に過ごすことができる。また、室内の装飾も季節感を取り入れたものとなっており、その中でも特に石と砂のアート作品が素晴らしかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は家族が来訪した際もゆっくり過ごせるよう、十分な広さが確保されている。ベットとたんすはホームの備え付けであるが、そのほかはテレビや椅子など好みの物が自由に持ち込まれている。</p>		

は、重点項目。